

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・「新しい家庭での生き生きとした生活をめざして」という理念をもとに、地域と密着した生活が送れるよう管理者、職員ともに支援している。</p> <p>・地域の行事や催し物に参加したり、外部との交流をもてるように心がけている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・理念を玄関の壁・面談室に掲示し、職員が理念を意識したサービスを提供場面に反映させていくように心がけている。</p> <p>・初任者研修時は特に、個別に理念を内容に含み行っている。全職員が理念を共有化し、啓蒙している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・事業所内に理念を掲示し、利用者や家族が見やすくわかりやすいようにしている。</p> <p>・理念をパンフレットや入居時の説明書に明示しており、家族や地域の人々に、説明、納得、了承を得ている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>・運営推進委員会のメンバーである町内会長・民生委員・老人クラブ会長にグループホームを理解していただき、交流を図っている。</p> <p>・グループホームのパンフレットを通所介護利用者や小・中学校に回覧したり、地域に向けて働きかけている。</p> <p>・グループホームの誕生会には保育園児による歌やお遊戯を披露してくれて、入居者の楽しみになっている。</p> <p>・通所介護を利用されている、同地区の知人が面会に来られたり、通所の方へ遊びに行き、交流をもっている方もいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている		
13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・利用者に、各担当職員がおり、異動や担当換えを行う際は、利用者に充分説明し、詳細に引き継ぎを行っている。</p> <p>・新しい職員を配置する際には、利用者に充分説明するとともに、全職員がフォローできるように声かけや促しをし、早く馴染めるように心がけている。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・新任研修により、理念・倫理・基本的な介護支援について学び報告書を提出している。</p> <p>・年間の研修計画を作成し、内部研修は月1回以上開催し、場面毎に、すぐ内容も検討している。研修内容は、報告書を作成し、回覧し、日々のケアに活かせるようにしている。常にレベルアップを計っている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・同法人の通所介護事業所や、居宅介護事業所と交流をもち、意見交換やアドバイスをうけている。</p> <p>・グループホーム協会に加入し、情報提供、サービスの質の向上、職員の育成に役立っている。</p>		<p>他のグループホームとの情報交換や交流の機会をもち、今後の支援に役立てていきたい。</p>
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・親睦会を開催し、管理者、職員参加し、職員の悩みやストレスの軽減ができるようにしている。</p> <p>・職員の休憩時間や休憩場所が確保されている。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・保有資格を活かした職員配置をし、職員のやりがいや向上心が持てるようにしている。</p> <p>・職員の資格取得に勤務を考慮している。</p> <p>・心身の健康を保つため、健康診断を毎年実施している。</p> <p>・就業規則があり、守られている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		<p>・サービス利用の相談があった時には、利用希望者や家族と面談し、身体の状態、思い、希望、ニーズを把握するように充分時間をかけている。</p> <p>・居宅介護事業所や、必要時は市役所とも連絡を取り、対応している。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		<p>・相談を受けた時は、利用希望者や家族のニーズに対し、担当居宅とも情報をとりながら、サービス内容を検討している。</p> <p>・すぐ対応できないことに対しては、管理者も混じえ、家族、本人と歩みよれるように検討している。</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		<p>・利用者、家族と十分話し合い、意向を確認しながらサービス内容を検討している。また、入居前の生活歴や基本情報をもとに、環境の変化による混乱を最小限にできるように、馴染みの生活作りに心がけている。</p> <p>・1つの例として、医療機関は入居前からの馴染みの病院に通院している。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		<p>・利用者や家族から、今までの生活ぶりや得意とするものを伺い、調理の下ごしらえや洗濯物たたみ等、家事のヒントを教えてもらいながら、一緒に作業している。</p> <p>・天気がいい日は、外に出て日向ぼっこをしながら、草花の名前を伺ったり、利用者の若かりし頃の話伺ったりしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の面会時は、利用者の近況を伝えたり、利用者から家族に伝えられた内容や意向を伺い、ケアサービスに活かせるようにしている。 ・利用者の思いや、気づきを職員間で共有できるように会議を定期的開催し、サービス計画内容に組み入れている。 		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族面会の折には、日々の様子、健康状態などを必ず報告して、理解を得ている。 ・利用者の各担当者が、毎月近況報告を郵送している。また、事業の広報も発行し、行事の報告や行事参加への呼びかけをしている。 ・面会、電話は24時間いつでも応じ、規制していない。 		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族から、知人や親しい関係者を伺い、交流が継続できるように、通所介護に遊びにでかけたり、面会の折に自室で自由に会話を楽しまれている。 ・面会、電話は自由で、希望者は家族や知人と外出できるように支援している。 		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がお互いの居室を行き来したり、ホームのソファに座り、談話して過ごされている。 ・各作業時も気の合う利用者同志で行うことが多い。 ・人間関係の悪化がみられた場合は、2ユニットを解放しているので別のユニットに移動し、職員が対応している。 		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入院等により、契約が終了しても、本人・家族にはいつでも相談に応じることを伝えている。 ・相談内容によっては担当居宅と連絡をとりあい、本人・家族に適切な支援ができるよう配慮している。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・利用者の個別のケース記録があり、日々の様子やケアの状況がわかるように記入されている。</p> <p>・特記事項は連絡帳に記入し、全職員情報を共有している。各担当職員より、毎月介護実践報告書が提出されており、必要に応じ計画を見直している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>当法人は、多種に分かれており、お互いに連携をとりあい、協力体制をとっている。法人内のサービスセンターに希望があれば訪問し、利用者間で交流もったり、法人内の事業所と連携をとり、行き来している。また、保育園とも楽しい交流がある。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>・運営推進会議のメンバーに民生委員、町会長、老人クラブの方が参加され協力を得ている。</p> <p>・警察・消防との連絡体制ができており、協力が得られている。</p> <p>・利用者の誕生会には保育園児の慰問があり、交流をもっている。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>同法人の居宅介護支援事業所と話し合ったり、必要時、他事業所のケアマネジャーとも協力しながら、本人の意向にそったサービスの提供について話し合っている。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>困難事例がある場合、法人内居宅介護支援事業所と相談している。</p> <p>今までは事業所内で解決できていた。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>40</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・入居時かかりつけ医を伺い、希望する医療機関で受診できるように支援している。また、利用者の体調不良時はすぐ受診している。</p> <p>・受診結果は家族に報告し、情報の共有を図り、適切な医療を受けられるようにしている。</p>		
<p>41</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・認知症の専門医を確保し相談している。</p> <p>・受診時には利用者個々の認知症状を詳しく医師に伝えて、適切な診断・治療を受けられるように支援している。</p>		
<p>42</p> <p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・施設内に看護職員がおり、日常の健康管理表を確認し、状態に応じて対応している。</p> <p>・不在時は、当法人内の看護師が駆け付け対応している。</p>		
<p>43</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・入院時は基本情報の他、利用者の認知症による問題点や生活レベル等についても情報を伝えている。</p> <p>・入院中は早期退院できるように、医療関係者との情報交換や相談に努め、その都度家族に報告し、協働して早期退院に努めている。</p> <p>・退院前には本人の状態を家族・医師より伺い、退院後は食事・排泄面等、個々に対応できるように支援している。</p>		
<p>44</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・重度化や終末期のケアについて、利用者・家族に意向を確認し、希望にそった対応ができるように医療機関とも相談している。内容はケース記録・計画書に明記し、確認署名、印をいただいている。</p> <p>・職員間でも、今後の対応、連絡等内容確認し、連絡帳ケースに記載し、情報を共有している。</p>		
<p>45</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化・終末期には家族の意向を十分に確かめの医療機関と話しあい、受診すべき症状や対応について情報交換し、内容をケース報告書等に記載し、検討会議を行っている。また、その都度出来ること、出来ないことを見極め、出来ることは最善の努力をして支援するようにし、医療機関、家族と話し合い、情報交換している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・別の居所へ移る際は、本人、家族及び関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換をしている。 ・本人の住み換えによるダメージを最小限にするように、習慣化していることや好み等も伝え、内容はケース記録、会議録に記載している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者に対する接遇のマニュアルがあり、内部研修を行ったり、職員は個人情報保護法を理解している。 ・個人情報の管理には充分配慮し、目につかないカウンター裏の棚に保管している。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・入居時得た情報を基に、生活して新たにわかった嗜好品や趣味、しぐさや行動等は連絡帳やファイルに記載し、利用者との信頼関係を築くことを日々心がけている。 ・買物時も同じような商品でも本人に選んでもらったり、買いたい物を手をとってもらったり、自己決定できる為の支援に努めている。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員は利用者の日々の様子を観察しながら、一人ひとりのペースに配慮したケアを提供するように心がけている。 ・起床時間・食事時間等の規制はしていない。 ・散歩や集団レクリエーションは希望にそって行い、集団活動が下手な方は個人的に行い、一人ひとりにあうよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・能力に応じ、衣服の選択は自由に行ってもらい、更衣を自ら行えるように見守りをしたり、着間違いはさりげなく声がけし更衣を手伝っている。 ・自らできない利用者には、家族から得た情報をヒントに好みの衣服で過ごせるように配慮している。 ・理容・美容は希望に応じ、なじみの理髪店に自由に出かけるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・全利用者の好物、禁止されている食品、調理方法等、表にして厨房に掲示している。 ・食事は常に職員も同席し、会話しながら食事を摂り、見守り介助をしながら楽しい時間に行っている。 ・能力により職員と一緒に下ごしらえ、準備・後片付けをしているが、無理じいはしていない。 		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒・喫煙は禁止しており、説明書に明記し、入居時、本人・家族に説明し、納得していただいている。飲酒、喫煙の方は、今のところない。 ・利用者の嗜好を本人・家族から伺い、飲み物もコーヒー、ジュース、お茶等種類が多く、温冷、どちらでも選ぶことができる。利用者個人のおやつも、自由な時間に選び食することもある。 		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの排泄パターンを一覧表にし、トイレに掲示している。パターンに応じトイレ誘導し、トイレにて排泄することが習慣化できるように支援している。 ・おむつ使用者も、できるだけトイレにて排泄出来るよう定期的に誘導し自立排泄に取り組んでいる。 		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の好みにあわせる様に、入浴の時間や、順番を調整している。なるべく同性職員による入浴介助をし、洗身できる所は能力に合わせてやってもらい、できない所を介助するするようにしている。 ・入浴拒否する利用者に対しては、無理じいせず、声がけし、入浴の促し方等職員間で話し合い、対応検討している。 		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日中はなるべく眠らないように、レクリエーションや軽い運動を行い、昼夜逆転を防ぎ良眠できるようにしている。 ・ホール内はA棟、B棟の仕切りもなく、好きな場所に休憩される様支援している。 ・眠れない時は本人から話を伺い、付き添ったり偽薬で対応したり、又医療機関と相談しながら眠剤の服用を調整している。 		
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが得意とするもの、喜び・楽しみを見つけ出し、能力に合わせて食器拭き、盛付け、洗濯物たたみ等利用者の役割を見つけ、日課としてやっている。 ・利用者から出た言動、しぐさ、行動は適宜ケースに記録し内容を見直ししている。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・能力によりお金を所持している利用者には金銭帳があり、入、出金を明確にし、定期的に所持金と照らし合わせ、家族に報告している。 ・希望により利用者と一緒に買い物をしたり、支払いは本人にやってもらったり、買い物の楽しみをもっといただいている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・入居前に利用していた隣接する通所介護に出かけ、知人と交流を持ったり、近くのコンビニに職員と一緒に買い物に出かけている。 ・外出は天候・体調を考慮し、事故のないよう近くで見守り、能力により無理な利用者には職員が介助しながら外出支援を実施している。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・社会見学の予定を定期的に入れ、行き先を利用者と相談しながら実施している。 ・社会見学後は反省会を行い、利用者からの感想も伺い、次回の計画に役立てている。 ・個別に家族等との外出は自由で、外出泊には日時、連絡先を記載し、全職員把握している。盆、正月はできるだけ外泊をすすめている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話はいつでもかけられるように希望に応じている。電話の取りつきも随時行っている。 ・帰宅願望がある時は、家族に協力いただき、電話や手紙を頻回にしてもらったりしている。 ・手紙は直接本人に渡すか、本人の能力によっては了解を得て、読んであげたり、代筆してあげることもある。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間は設定しておらず、家族の状況に応じ気軽に訪問できるようにしている。 ・訪問時には、居室・面会室・ホール等、居心地よく過ごせるよう伺い配慮している。 ・宿泊希望時はいつでも泊まれるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束を行わないことを原則として職員間で内部研修を定期的に行い、重要性を理解しケアしている。 ・本人の危険防止の為やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、家族の同意を得、理由、期間を記入し、必要最低限にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日中は玄関や居室ドアは施錠していない。ただし防犯の為21時～6時まででは施錠している。 ・利用者の無断外出の危険がある時は出入口に鈴をつけ、開けた時は声がけし、職員が必要時付き添い散歩をしている。地域住民や関係施設の協力も得られている。 		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールから廊下まで見通せる位置で書き物や、各作業を行うよう職員は心がけ、プライバシーに配慮しながら見守りをしている。 ・夜間も定期的に見廻りし、様子観察をし、安全に配慮している。 		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・包丁・ナイフ等は本数を教え、台所のつり棚の中に入れ施錠している。利用者が使用する場合は、職員とともに作業し、終了後は責任をもって確認し、所定の場所に保管している。 ・薬品・危険物も手の届い所、目のつかない所に置いている。 		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット報告書、事故報告書を発生時すぐ記載し、再発防止にむけた話し合いをしている。 ・報告書及び会議録は全職員に回覧し、所定のファイルに綴っている。 ・事故防止の為の内部研修も行っている。 		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応マニュアルが作成されている。 ・内部研修も適宜行い、全職員のレベルアップを図っている。 ・消防署・救急隊による蘇生方法や救急手当についての研修を受講している。 		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・同法人の他施設とつながっている緊急通報システムが整備されており、月1回避難訓練を行っている。また、消防署、警察署との非常通報装置を備えている。施設間の連絡機器、防災器具があり、応援体制も整っている。 ・備蓄食品は、近くのコンビニの協力があり行っていない。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医意見書や定期受診の際、医師から説明をうけケース検討会議で話し合い、起こり得るリスクや対応について検討している。 ・計画書にも盛りこみ家族に充分説明し、面会時には近況を伝え、理解を得ており、見直しも随時行っている。 		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時、本人、家族、主治医により情報を提供してもらっている。入居中本人の身体状況に変化がみられた時は適宜変更し、職員間で情報を共有している。 ・毎日バイタルチェック、排泄チェック、食事量等のチェック表を記入し、申し送り時異常を報告し、早期対応できるようにしている。必要時はすぐ受診し、家族にも報告している。 		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・受診時付き添った職員が服薬に対し責任をもって内容をファイルに綴じ、変更時は申し送り、連絡帳記入によって全職員が周知している。 ・内服薬変更時は様子観察を強化し、記録している。 ・服薬確認は毎回服用分箱に入れ、チェック表も作成しているので飲み忘れの防止になっている。 		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、食事摂取量、排泄確認表を記入し、排便の確認を行っている。 ・内部研修も行い、便秘の予防として水分補給や必要に応じ腹部マッサージを行ったりしている。 ・法人の栄養士による、助言もある。 		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨き、義歯洗浄は日に2回は行っており、自分のできる人には声がけし、見守りでやってもらっている。できない方には職員が行い、口腔内のチェックをし、チェック表に記入している。 		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食栄養バランスを考えた献立にし、摂取カロリー等も考慮して作っている。 ・献立は同法人内の栄養士より助言を得ている。 ・食事摂取量、水分補給は毎回チェックし、水分が足りない時は、好きな飲み物をすすめたりしている。本人の健康状態にあわせ、お粥・きざみ食にしている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症の予防対応マニュアルがあり、随時、内部研修を行っている。 ・感染症に対する情報があると、収集し、職員間で話し合い対応している。 ・インフルエンザ予防接種は、家族の承諾を得て実施している。		
76	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所、調理用具等は毎回、キッチンハイター消毒、煮沸消毒、熱湯消毒を行っている。清潔を保つためのマニュアルも作成し実施している。 ・食材は新鮮なものを選び、食べる分を調理し次回に残さないよう工夫をしている。 ・冷蔵庫内の管理担当者を決め、食料・衛生チェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関の建具は木材を使用し、家庭的な雰囲気を作っている。 ・玄関前や周囲に花壇があり、季節の花々がみられ明るく安心感がもてるように工夫している。		
78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家具や建具は木目調で、家庭的な落ち着いた雰囲気になっている。台所も一般家庭と同じような造りになっている。 ・テレビの音量は、見ている利用者やホールでくつろいでいる利用者に随時伺いながら調節をしている。 ・日射し、照明はレースのカーテンで調節したり、採光の状態に応じ適宜照明している。		
79	共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールにソファや対面できるテーブル・椅子を配置し、テレビを観たり、気のあう利用者同志自由に交流が持てるようにしている。 ・面会室はいつも開放し、自由に行き来している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・当グループホームは、弘前市内とはいえ農村地域にある。入居者もほとんど農家出身で、広々とした環境で今までの生活習慣を基にのんびり生活している。
- ・寝たきりにならないように支援している。